

事業報告書

平成 28 年度



社会福祉法人聖啓会

特別養護老人ホーム菜の花

ショートステイ菜の花

デイサービス菜の花

居宅介護支援事業所菜の花

目次

法人役員.....	1
法人活動報告.....	2
特別養護老人ホーム菜の花 事業報告.....	3
相談業務.....	5
支援業務.....	6
支援業務.....	7
機能訓練.....	8
栄養業務.....	9
介護業務.....	12
全体行事.....	16
その他の行事.....	16
ユニット行事.....	16
ボランティア.....	17
ショートステイ菜の花 事業報告.....	18
デイサービス菜の花 事業報告.....	19
デイサービス菜の花 事業報告.....	20
居宅介護支援事業所菜の花 事業報告.....	22
医務計画（健康サポートセンター報告）.....	23
ボランティア受入報告.....	24
消防・防災 事業報告.....	25
寄付・寄贈 報告.....	26
平成28年度 苦情対応報告.....	27
内部研修報告 一覧.....	31
外部研修報告 一覧.....	32

法人役員

任期 平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時

役員	氏名	住所
理事	星野 正明	静岡県藤枝市
理事	星野 美奈子	静岡県藤枝市
理事	金原 俊輔	静岡県浜松市
理事	川口 節子	静岡県静岡市
理事	神尾 芳典	静岡県藤枝市
理事	亀甲 良明	静岡県牧之原市

監事	杉山 重人	静岡県菊川市
監事	松村 奈緒子	静岡県藤枝市

法人活動報告

理事会審議事項

開催日	種別	No.	議題
H28. 5. 19 第一回理事会	報告事項	第 1 号	理事長専決事項・これまでの経緯
	議案	第 1 号	平成 27 年度 監事監査報告・事業報告及び決算報告
	議案	第 2 号	次期聖啓会理事の選任
	議案	第 3 号	次期聖啓会監事の選任
	議案	第 4 号	理事委嘱
	議案	第 5 号	理事長互選
	議案	第 6 号	理事長職務代理者の確認
H28. 12. 15 第二回理事会	報告事項	第 2 号	理事長専決事項・これまでの経緯
	議案	第 7 号	借入金繰上返済・弁済保証金負担
	議案	第 8 号	平成 28 年度第 1 回補正予算
	議案	第 9 号	社会福祉法人の制度改革に伴う定款変更について
H29. 3. 2 第三回理事会	報告事項	第 3 号	理事長専決事項・これまでの経緯
	議案	第 10 号	平成 28 年度第 2 回補正予算
	議案	第 11 号	評議員専任解任委員会運営細則について
	議案	第 12 号	評議員専任解任委員の選任について
	議案	第 13 号	評議員会運営規程について
	議案	第 14 号	評議員 委員推薦について
	議案	第 15 号	評議員選任解任委員会の招集について
H29. 3. 16 評議員選任・ 解任委員会	報告事項	第 1 号	評議員選任解任委員の委嘱・就任承諾書受領
	議案	第 1 号	評議員選任
	報告事項	第 1 号	評議員選任解任委員の委嘱・就任承諾書受領
H29. 3. 30 第四回理事会	報告事項	第 4 号	理事長専決事項・これまでの経緯
	議案	第 16 号	平成 28 年度第 3 回補正予算
	議案	第 17 号	平成 29 年度事業計画・予算

特別養護老人ホーム菜の花 事業報告

1 施設運営の方針

<ご利用者対応指針>に関する報告

- ① 身体拘束…………… 一人もなく経過。 毎月委員会の場で身体拘束要因対象者に対し対応方法を検討した。
- ② 生活環境…………… 介護サポートの職員が各フロアで特色を出し環境を整えた。又、葉植物を配置。又、手造りのテーブルや高さを調整した。南側のベランダにお花のプランターを配置し各居室からも眺められるようにした。静岡県花緑コンクールで入賞。
- ③ 排泄援助の個別化… 毎月排泄委員会で討議し、下剤ゼロを目指し食物繊維（サンプアイバー）の使用を開始した。
- ④ 食形態…………… 管理栄養士が主体となり担当者会議と摂食委員会の場で検討している。給食会議では委託業者と打ち合わせを実施。
- ⑤ 入浴時間…………… 殆どの方が日中でも満足されて居られる様子。
- ⑥ 認知症…………… フリーダムを活用し搭載のメニューを駆使し進行予防のレクを実施した。認知症ケア専門士を採用。研修会開催。
- ⑦ 健康管理…………… 嘱託医は毎週2回の回診と看護師による健康サポート部が毎日の健康管理・健康診断・緊急時に対応。今期も感染症（インフルエンザ）は4名であった。幸い拡大はしなかった。感染性胃腸炎の発症はゼロであった。

<職員処遇指針>に関する報告

- ① 人財…………… として大切に育てましたが、11名が退職。現在91名（パート含）で運営。
- ② ワークライフ………… 職員一人一人のライフスタイルの中で勤務。シフトは83に分けている。
- ③ 福利厚生…………… 忘年会、秋祭り、など各行事の際等、職員間の交流を図っている。志太会に加入し他施設との交流を図っている。
- ④ 外部、内部研修…… 別紙研修一覧表参照。

<地域や関係機関との連携>に関する報告

- ① 協力病院との連携…… 緊急搬送は別紙参照。相談員、ケアマネとの相互の連携を図った。
- ② 地域の行事の参加…… 4月 河川の清掃(町内行事)
10月 白髭神社祭り
11月 烏帽子山祭り
1月 内瀬戸町内会 組長会
- ③ 地域町内会に加入…… 4月より加入
- ④ 地域防災拠点…………… 藤枝市特別養護老人ホームの施設長会で福祉避難所協定を結ぶ。
- ⑤ 地域交流室…………… 解放している。入居者の方と地域、ご家族との食事会など。地域の方の見学の際にお茶のおもてなしをしている。作品展の開催時近隣の方々、ご家族に解放。
- ⑥ ボランティア…………… 受け入れ状況は別紙参照
- ⑦ 関連施設の勉強会…… 藤枝市立総合病院主催の勉強会に参加
- ⑧ 施設主催…………… イベントを地域に発信。秋祭りの際はチケット570枚発行。
- ⑨ 「菜の花だより」…… 毎月発行。ご家族、関連施設に発送。

- ⑩ ホームページ…………… 毎月更新。
- ⑪ 地域の学校…………… 青島小学校児童との交流会を開催し世代間交流を図った。計6回
- ⑫ 自然との触れ合い …… 外出レクは別紙参照
- ⑬ 地域の名産…………… 名物を取り入れた献立は栄養事業報告参照。
- ⑭ 地域のレストラン …… レストランやお寿司屋など外食レクは今年は実施できなかった。

2 平成28年度の評価及び来期の課題

開設5年目で計画以上の内容で運営できました。

人財は施設運営の要であります。定着率を上げる為の対策を講じて行きます。個人面接は各ユニットのリーダーが実施。職員が安心して働けるよう地域の施設との賃金格差に対応できる様にしていきます。昨年からの処遇改善交付金により収入は上がったが、全国的であり、施設での処遇が改善されては居らず、今後も他施設に転職する職員が出るのを恐れている。賃金だけではなく、職場風土の利点を生かし、遣り甲斐のある職場にしていきたい。

<6年目に向けて>

- ① 介護のスキルUPを図る。
 - ・ユニットリーダーの育成→マネジメントスキルアップを図る。目標管理
 - ・内部研修を充実させる→毎日12時30分～13時まで。講師は職員
 - ・ユニットケアの実践→企画運営をユニット単位で任せる。(ユニット費の設定)
 - ・受け持ち制を実践→介護職員と入居者との信頼関係を深める。
 - ・口腔ケアの充実→口腔ケア研修計画
- ② 職員の満足度を上げる。
 - ・福利厚生を充実→職員間のコミュニケーションを良好にする(ボーリング大会等)
 - ・遣り甲斐感→処遇改善。目標管理(自分の目指す事を明確にする)
 - ・心の健康づくり→(面接、相談窓口を作る)
- ③ 世代間交流を図る→青島小学校との交流を継続する。中学2年生60名のボランティア受入
- ④ 研修生の受け入れ→初任者研修 社会福祉士、警察学校、介護福祉士
- ⑤ 入居者の生きがい、楽しみが充実できるプランを立てる。教養娯楽費の有効活用を図る
 - ・倶楽部活動の充実を図る。
 - 園芸倶楽部の活性化を図る(施設の前の畑の一部を借り野菜作りを開始する)
 - ・外出の機会を多く持つ。
 - ・ボランティアの協力を得る。
 - ・「美味しい」、「楽しい」、「嬉しい」、時を企画運営。

相談業務

受入報告

在宅での介護をしておられるご家族が、様々な理由により、介護が困難になったり、一人暮らしの高齢者が、介護が必要となり、日常生活が困難になった場合など、優先入所指針に基づいて、入所の必要性の高い方から優先入所検討委員会を設けて随時入所手続をして参りました。

支援報告

入所されたご利用者さまが長期に生活できる施設として安心快適にお過ごしいただけるよう、できるだけ支援をしました。また、必要に応じて受診手続きの支援をしました。

また、ご利用者様やご家族からの相談を受け、支援したり、ご利用者の状況等についてご家族に密に報告・連携を取らせていただきました。

相談内容報告

1. 常にご利用者様の心身の状況・その置かれている環境等の明確な把握に努め、ご利用者様またはご家族様に対し、相談に適切に応じると共に必要な助言そのほかの援助に努めました。
2. ご家族様との「連携」を充実させ、必要な助言・援助を行うことに努めました。
3. 優先入所制度の円滑な運用に努力しました。

延利用者数・平均介護度・稼働率

摘要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
うち男性	311	321	300	310	311	336	385	450	462	442	429	512	4,569
うち女性	1,719	1,791	1,763	1,796	1,741	1,663	1,699	1,594	1,630	1,616	1,506	1,578	20,096
延利用数	2,030	2,112	2,063	2,106	2,052	1,999	2,084	2,044	2,092	2,058	1,935	2,090	24,665

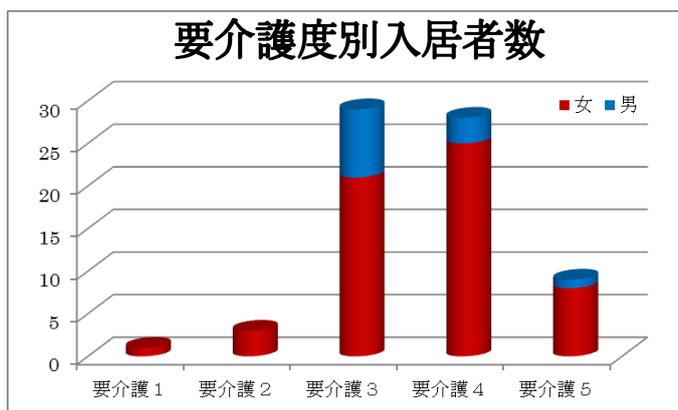
うち男性	3.61	3.54	3.80	3.80	3.58	3.36	3.37	3.47	3.43	3.42	3.41	3.42	3.52
うち女性	3.66	3.68	3.70	3.79	3.66	3.70	3.60	3.58	3.56	3.57	3.59	3.59	3.64
平均介護度	3.65	3.66	3.72	3.70	3.64	3.64	3.56	3.56	3.53	3.54	3.55	3.55	3.61

稼働率(%)	96.67	97.33	98.24	97.05	94.56	95.19	96.04	97.33	96.41	94.84	98.72	96.31	96.54
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

要介護度別入居者数

	女	男	介護度
要介護1	1		1
要介護2	3		3
要介護3	21	8	29
要介護4	25	3	28
要介護5	8	1	9
総計	58	12	70

要介護度別入居者数

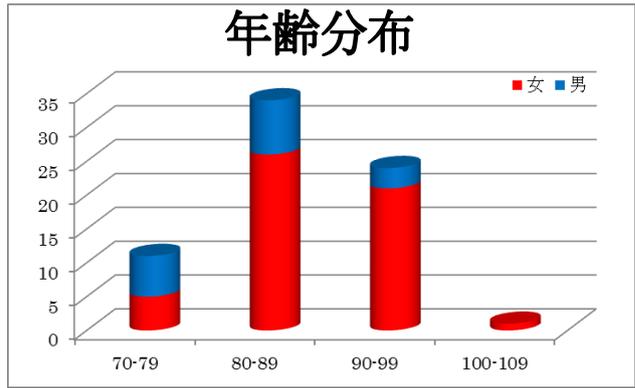


保険者別入居者数

保険者名称	女	男	総計
吉田町	2	1	3
焼津市	9	1	10
川根本町	2		2
島田市	2		2
藤枝市	42	10	52
牧之原市	1		1
総計	58	12	70

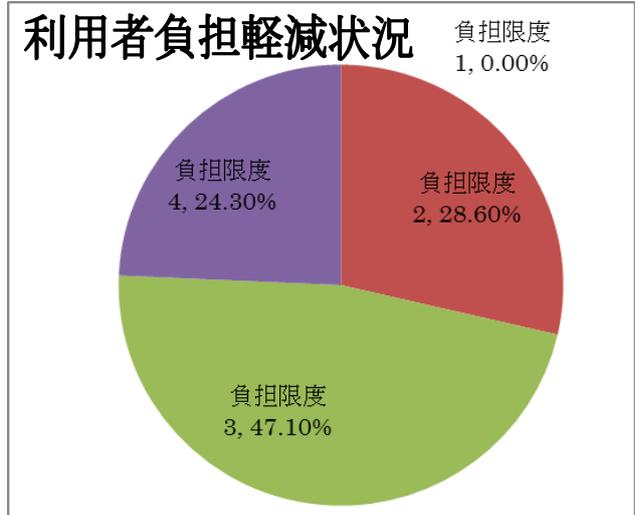
年齢分布

年齢	女	男	総計
70-79	5	6	11
80-89	26	8	34
90-99	21	3	24
100-109	1		1
	53	17	70



利用者負担軽減状況

負担段階	人数	割合
負担限度 1	0	0.0%
負担限度 2	20	28.6%
負担限度 3	33	47.1%
負担限度 4	17	24.3%



社会福祉法人等利用者負担軽減

負担段階	人数	割合
社福減免	4	5.71%

優先入所検討委員会 開催状況

開催回	開催日	決定人数	開催回	開催日	決定人数
第 45 回	H28. 4. 5	2 名	第 54 回	H28. 11. 8	4 名
第 46 回	H28. 4. 19	4 名	第 55 回	H28. 12. 8	4 名
第 47 回	H28. 5. 31	1 名	第 56 回	H28. 12. 22	2 名
第 48 回	H28. 6. 23	3 名	第 57 回	H29. 1. 10	3 名
第 49 回	H28. 8. 9	3 名	第 58 回	H29. 1. 19	3 名
第 50 回	H28. 8. 30	2 名	第 59 回	H29. 1. 26	2 名
第 51 回	H28. 9. 15	2 名	第 60 回	H29. 2. 21	2 名
第 52 回	H28. 10. 11	2 名	第 61 回	H29. 3. 7	3 名
第 53 回	H28. 10. 18	2 名	第 62 回	H29. 3. 21	3 名

新規入所者数 37名

退所者・内訳

総退所者数	看取り	転院	自宅	病院	病死
38名	13名	7名	1名	2名	15名

支援業務

支援計画（ケアプラン）の作成を行いました。

概ね6ヶ月ごと、状態に変化がある場合はその都度、担当者会議を開催し、支援計画の見直しをしました。その人らしさを重視した個別性のある計画を心掛けました。

また、介護保険の認定がスムーズにおこなわれるよう、認定調査の立ち合いをしました。

担当者会議開催回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	12	7	9	12	10	12	12	14	11	13	13	9	134

介護保険認定調査立ち合い回数 46回

機能訓練

利用者様・ご家族様の意向を尊重しながら、身体機能の維持・向上を目指し、下記の事業を実施した。

- ・個別機能訓練計画書の作成
- ・個別訓練（歩行訓練、立ち上がり訓練、立位保持訓練、座位保持訓練、移乗訓練、マッサージ、関節可動域訓練、車椅子散歩等）
- ・集団訓練（ラジオ体操・TV体操・リハビリ体操）
- ・担当者会議への出席
- ・委員会、各行事への出席

月別訓練実施延人数

4月（個別訓練 143名、集団訓練 201名）	5月（個別訓練 148名、集団訓練 212名）
6月（個別訓練 140名、集団訓練 182名）	7月（個別訓練 136名、集団訓練 174名）
8月（個別訓練 162名、集団訓練 159名）	9月（個別訓練 127名、集団訓練 176名）
10月（個別訓練 134名、集団訓練 156名）	11月（個別訓練 119名、集団訓練 134名）
12月（個別訓練 126名、集団訓練 139名）	1月（個別訓練 137名、集団訓練 156名）
2月（個別訓練 134名、集団訓練 174名）	3月（個別訓練 159名、集団訓練 179名）

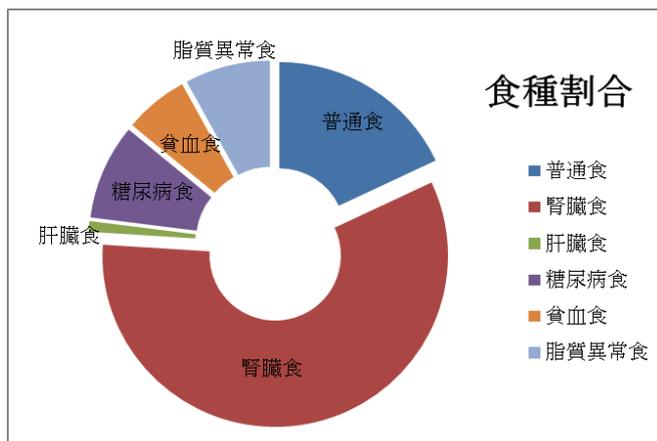
- ・今後は、入所者様に更に喜んでいただけるよう、担当する健康倶楽部をはじめ、他の倶楽部活動や各ユニットの行事などにもできるだけ参加していきたいと考えています。

栄養業務

栄養ケアマネジメントを実施しました。施設ケアプランに基づき、栄養計画書を作成し、定期的に評価、状態の変化に合わせて見直しを行いました。また毎食、心が伝わるようなおいしいお食事を提供できるように給食委託業者の指導を行いました。それぞれの食形態について、技術向上の努力も日々行っております。引き続き、おいしく楽しく気持ちよく、食事ができる工夫をしていきます。

1、食種 (H29.3.31 現在)

食種	食数 (人)	割合 (%)
普通食	12	18
腎臓食	45	65
肝臓食	1	2
糖尿病食	5	7
胃潰瘍食	0	0
貧血食	3	4
脂質異常食	3	4
痛風食	0	0
脾臓食	0	0
合計	69	100



2、食形態 (H29.3.31 現在)

	形態	食数 (人)	割合 (%)
主食	米飯	18	26
	軟飯	31	45
	全粥	17	25
	ソフト粥	2	3
	パン	1	1
	合計	69	100

	形態	食数 (人)	割合 (%)
副食	常菜	24	35
	一口大	27	39
	やわらか	15	22
	ソフト	3	4
	合計	70	100

※その他、個別対応食、ハーフ食、ターミナル食、禁止食、夜食など入居者様個人の状況に合わせて提供

3、栄養給与目標量 (H28 年度)

	エネルギー	たんぱく質	脂質エネルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン A	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩相当量	食物繊維総量
	kg	g	%	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g	g
男	1600	65	20~25	700	7	800	1.2	1.3	100	8.0	19
女	1450	60	20~25	600	6	650	0.9	1.1	100	7.0	17

栄養給与量 (H28 年度)

エネルギー	たんぱく質	脂質エネルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン A	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩相当量	食物繊維総量
kg	g	%	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g	g
1503	57.3	22.0	656	7.3	806	1.38	1.29	96	7.6	13.8

4、行事食

4月	1日	全ユニット	開設記念日
5月	3日	全ユニット	おやつ かしわ餅提供
	5日	全ユニット	こどもの日献立
	12日	全ユニット	かつおのたたきを提供
6月	12日	デイサービス	デイサービス開設記念日お祝い膳
7月	7日	全ユニット	七夕献立
	25日	全ユニット	土用の丑の日献立
	19. 26日	ショート、デイサービス	流しそうめん
8月	3. 5. 10. 11. 18日	特養、デイサービス	流しそうめん
9月	4日	全ユニット	敬老会お祝い膳
	17日	全ユニット	菜の花まつり屋台出店
	23日	全ユニット	おやつ おはぎ提供
	23日	全ユニット	秋の味覚献立
	29日	全ユニット	秋の味覚献立
10月	20日	全ユニット	秋の味覚献立
	28日	全ユニット	秋の味覚献立
	31日	全ユニット	おやつ ハロウインの南瓜プリン提供
11月	9日	全ユニット	秋の味覚献立
	14日	全ユニット	秋の味覚献立
12月	12. 22日	全ユニット	にぎり寿司実演、提供
	24日	全ユニット	クリスマス献立（洋食）
	25日	全ユニット	クリスマス献立（和風）
	31日	全ユニット	年越しそば
1月	1～2日	全ユニット	おせち料理
	7日	全ユニット	七草粥
2月	3日	全ユニット	恵方巻き
	14日	全ユニット	おやつ 手作りバレンタインのお菓子
	17日	全ユニット	にぎり寿司
3月	3日	全ユニット	ひなまつり献立
	7日	全ユニット	春のお楽しみ献立
	17日	全ユニット	おやつ ぼたもち提供
	31日	全ユニット	H28年度感謝のお食事（赤飯）

季節に合った献立にするようにし、食欲が増すような工夫をしました。また料理の温度にも注意し、よりおいしく食べていただけるように心がけました。入居様お一人お一人に合わせたお食事内容になるように努力しました。

行事食の他に、各ユニットごとに企画された調理レクリエーションの材料の準備、参加をしました。



4月1日 開設記念日



4月13日 春のお好み献立



5月12日 カツオのたたき



6月13日 デイ開設記念日



7月7日 セタそうめん



9月4日 敬老会



9月14日 デイ敬老会



11月17日 鉄火丼



12月12日 にぎり寿司実演



10月20日 秋の味覚献立



1月1日 おせち料理



2月3日 恵方巻き



2月17日 にぎり寿司



3月3日 ひなまつり



3月17日 春献立

介護業務

菜の花が開設し5年が過ぎました。「設立・立ち上げ」という共通した大きな目標を乗り越え、若かった職員も成長し、日常業務を繰り返すことで、入居者様との関係を育ててまいりました。「聴く力」「見る力」「考える力」「決める力」「やり通す力」「伝える力」を日々の関わりの中から身に付け、人が人として生活を支えるための知識・技術・人間観を学び、ケアの向上に努めてまいりました。施設は形成期に差し掛かりますが、入居者様と職員の関係は、時間の経過、重度化、長期化などの因子をもって変化し続けています。今まで培ってきた関係性のもと、寄り添い悩み、創意工夫を凝らしながら今後も支援していきます。

1、教育委員会

休憩時間を利用した30分研修、月1回各委員会による研修を実施しました。個人目標を掲げてもらうことで、自身の業務を振り返り、かかわりの中で学びたい知識や自身が伸ばしていきたいと思う課題を見つめなおしました。年度の終わりには各自掲げた目標を自己評価し上司よりアドバイスをしていただくことで、次年度へのステップアップを図りました。

今後もより良いサービスの提供が出来る様、外部研修への参加推進や高齢者疑似体験を組み入れた研修など今後も知識と技術の習得に努めていきます。

2、摂食委員会

平成28年度は「安全でおいしいひとさじ」をテーマとし活動してまいりました。安全な嚥下の視点から食事状態を観察・記録し食事摂取について委員から発信していけるよう各ユニットの誤嚥リスクのある方について、現状の把握と分析・改善に努めました。委員会活動を通じて入居者様の食事摂取状態を検討する機会が増え、振り返りから、次に必要とされる活動内容につないでいける力を少しずつ培うことができました。ただし高齢者にとって最大の楽しみである食事を可能な限り「安全」で「おいしく」召し上がって頂くために、誤嚥性肺炎や嚥下障害の知識の習得、観察から得た気づきと知識を照らし合わせる事で根拠に基づいたケアを摂食委員が中心となり展開できる仕組み形成までには至りませんでした。28年度に達成できなかった課題は来年度に引き継ぎ、活かしていきたいと思えます。

3、入浴・排泄委員会

菜の花開設当初からのテーマである『可能な限りトイレでの排泄』と『のんびりゆったり個室浴槽』に取り組んできました。5年間の取り組みの中で、介護の現場においてもっとも効率が高い方法は、入居者様が「～したい」と思った時に働きかけることであると実践を通じて習得しました。排泄したくない気分の中トイレへ誘ってもなかなか立って下されない方も「トイレに行きたい」と思われたときに案内するとスムーズに立ち上がってくださいます。排泄パターンという目に見えない尿意・便意に始まり生活リズムそのものを読み取り、チームで共有、実践する中で職員の介護力向上につながっていきました。特養へ入居される方も年々重度化し、言語でのコミュニケーションが困難な方も多数生活されています。排泄ケアを通じ目に見えないものへの共感と理解、それを根拠としたかかわりの継続を今後も進めていけるよう委員を中心に支援していきます。

4、感染症対策委員会

昨年度同様、嘔吐物処理の研修、インフルエンザ対応の研修を全職員が受講できるよう複数回に分け開催しました。福祉施設における感染管理は入居者様及び職員の健康管理と感染源の進入防止が重要です。しかし感染事態を完全に無くす事は不可能なため、今年度は『感染をもらわない対策』と並行し『感染を拡げない対策』を目指しました。『感染を拡げない対策』を視野に入れる事で例年は感染症流行期間（12月から3月）の面会や外出は制限していましたが、今年度は制限を設けず通常通りに面会、外出を行ないました。2月から3月にかけて6名の入居者様がインフルエンザに感染されましたが、感染発症時に各部所が連携を

とり、観察・連絡・報告・処置・対応が迅速に行われた為、拡大に至らず収束しました。面会制限を設けなかった事で、ご家族様より「お正月におばあちゃんに会えてうれしかった」「孫の成人式の晴れ姿を見せてあげられた。よかったです」と喜びの声をたくさん承りました。面会制限を行うことが感染防止につながるのではなく、「施設だから」「集団生活だから」と言った考えにとらわれず、入居者様一人一人の日常生活を常に念頭に入れ、施設の感染管理における職種ごとの役割と責任の明確化を図れるよう今後も取り組んでいきたいです。

5、身体拘束委員会

昨年度同様身体拘束に対する施設の指針を周知、身体拘束ゼロを実践しています。

『身体拘束ゼロへの手引き』を各ユニットに常備、勉強会を開催することで身体拘束に関する知識の習得に努めました。昨年度に続き身体拘束に関するアンケートを全職員対象に行い、結果をもとに3名一組のチームを組みスピーチロックのロールプレイを実施しました。たとえば歩行にふらつきがある認知症高齢者が「立って歩きたい」という意思を行動、表情で示しているが「転倒・骨折のリスクが高い」ことが予測される場合、『立って歩きたいという自律的な本人の意思決定を尊重する』気持ちと『転倒・骨折をさせてはいけない』という事故防止との間にジレンマが生じ、このジレンマが「ちょっと待って」「立たないで」などのスピーチロックを生み出す要因として導き出されました。次年度は多方面から要因を分析し、入居者様が心身ともに穏やかに過ごせるケアへ発展できるよう取り組んでいきます。

6、事故対策委員会

今年度より身体拘束委員会と切り離し、独立して委員会を開催いたしました。会議の内容は従来同様事故発生時はその事故における原因分析と同種の事故再発防止のための改善策検討及び体制整備、毎月集計されているヒヤリハット報告から読み取れる課題抽出と周知報告を行いました。日常生活動作の低下は転倒リスクを高める要因であり、転倒を契機として生活機能全般を低下してしまう負の循環を生むことから、委員会を通じ複眼的視点で転倒リスクの分析と個々の入居者に対するアセスメント及びそれに基づく適切なケアの提供を日々行っています。また身体拘束を行わないことで転倒事故リスクを抱えるご入居者様に対しては、日頃からご家族様を交えて「生活の場」における菜の花のケアについて共通の認識を持っていただけるようコミュニケーションを図っていきます。

6、看取り委員会

看取り委員が中心となり平成28年6月特別養護老人ホーム愛華の郷看取り委員会とのディスカッション、平成29年2月鳥海房江先生による『看取り研修』を開催いたしました。愛華の郷看取り委員会とのディスカッションでは施設は異なれど『特養（生活の場）で看取る』に対する不安や疑問、多職種連携における重要性と実行することの難しさなどについて議論が交わされました。双方の施設で取り入れられている実践方法を持ち帰り新たな支援体制の構築を検討しています。鳥海房江先生による『看取り研修』では菜の花職員のみならず他の施設からもたくさんの職員が参加を希望され、熱気に溢れた研修となりました。

2つの大きな研修を通じ、「想い」はケアに欠かせない大切なものであり、看取りケアはより一層人の「想い」を反映しケアにあたること、『病気』に寄り添うのではなく『人』に寄り添うこと、終末期を迎える場所が問題ではなく、その有り様や今を生きることへの支援の重要性を学びました。そのためには入居者様の「想い」や「歩んできた喜怒哀楽の人生」を最期まで大切にす、さらに「想い」に加えて菜の花の理念に基づく死のとりえ方・理論・援助技術・倫理・人権を意識し、指針を作成の上、今後は看取りの振り返りも行っていく。

7、クラブ活動など

書道クラブ：第2、第4水曜日開催。若い頃に慣れ親しんだ筆を手にとられ、季節ごとの文字をしたためています。先生からいただく花丸や時に手直しも次回への励みに繋がっており参加されたご入居者様にも熱が入っています。

華道クラブ：第3水曜日開催。季節の花々に触れ、口々に「きれいね」と喜んで下さいます。麻痺がある方も参加しやすく、完成した作品をホールや居室に飾る事で、他のご入居者様や御家族様との楽しい会話に花を添えています。

手芸クラブ：第3金曜日開催。根付などを作成しました。作品を作る過程だけではなく、完成した作品を使う事で新たな喜びにつなげることが出来ました。

絵手紙クラブ：第4金曜日開催。季節の風物詩を絵と言葉で表しメッセージを記しました。絵を描くに留まらず時には折り紙やちぎり絵を用いて素敵な作品が出来上がりました。

おしゃれクラブ：第3月曜日開催。出張美容コゼットさんの協力をいただき女性の方々にマニキュアやお化粧を楽しんで頂きました。花を飾ったり、アロマをたいたりなど会場の雰囲気作りから始まりました。きれいになられたお母様をご覧になられご家族様からも喜びの声を多数いただきました。

舌鼓クラブ：5月新茶会、10月さんまBBQ、2月お汁粉、3月甘酒を楽しみました。昨年度より開催しましたが季節を楽しめる活動となりました。美味しい食べ物をきっかけに和やかな交流が生まれました。

音楽クラブ：お誕生日のお祝いとしてユニットで懐メロや童謡を楽しみました。歌を唄う事で昔を思い出し気持ちの良いひと時を過ごせました。

健康クラブ：フリーダムを活用しフロアごとに音楽に合わせた体操を毎月1時間ほど行っています。

園芸クラブ：冬季に「春のお花を植えましょう」と題して小さな観葉植物をユニットごとに植えました。土に触れる事で温かさを感じ、植えた植物を眼にする事で日々の楽しみにつながりました。





平成 28 年度実施年間行事及びレクリエーション

全体行事

月日	内容	
7月1日～7月7日	七夕	各フロア
8月3日～8月18日	流しそうめん	各ユニット
9月4日	菜の花敬老会 お食事会	
9月17日	菜の花祭り (バザー・屋台・ゲーム)	各フロア
12月12日・22日	握りずし実演	各フロア
12月28日～1月2日	忘年会&新年会	各ユニット

その他の行事

年月日	行事
4月2日	開設記念献立
4月27日	菜の花作品展 (-5月10日)
5月8日	母の日のチョコレートケーキ
9月24日	自衛隊静浜基地見学
7月8日	青島小学校2年生と交流
7月10日	青島小学校2年生と交流
7月17日	青島小学校2年生と交流
9月29日	お神輿練り歩き
10月2日	青島小学校2年生と交流
10月5日	青島小学校2年生と交流
10月8日	手揉み保存会より手揉み茶寄贈
10月16日	青島小学校2年生と交流
11月14日	常葉学生と交流



ユニット行事

年月	行事	ユニット
4月4日	花見ドライブ	富士
4月8日	花見ドライブ	瀬戸
4月15日	桜を見に行こう	隼
4月26日	桜もちを作り去りゆく春を感じよう	聖
5月5日	藤の花を見に行こう	壽
5月21日	ホットケーキづくり	瀬戸
5月11日	かき氷を作って食べよう	壽
8月29日	季節のフルーツが食べたい	寿
9月21日	季節のフルーツが食べたい	壽
10月19日	季節のフルーツが食べたい	壽
10月31日	ホットケーキづくり	聖
11月17日	ラーメンパーティ	壽
12月28日	鍋パーティー	聖
12月31日	瀬戸ユニット忘年会	瀬戸
12月31日	烏帽子ユニット忘年会	烏帽子
1月1日	おせちをビュッフェスタイルで	聖
1月19日	焼きそばを作ろう	壽
1月23日	炊き込みご飯を食べよう	壽
1月14日	和風パンケーキ	瀬戸
2月22日	フルーチェ作り	富士
3月8日	ホットケーキづくり	烏帽子



ボランティア

年月日	行事
4月10日	ボランティア大正琴
4月24日	ボランティアピアノとフルートのコンサート
4月27日	ボランティアFu〜風
5月13日	ボランティアとっつこうくっつこう
5月22日	ボランティアオカリナ・フラダンス・大正琴
6月26日	ボランティアサックス演奏
6月27日	ボランティアかみさまのおもちやばこ
7月1日	ボランティアとっつこうくっつこう
7月15日	ボランティアFu〜風
7月31日	ボランティアグルーポカーニャ
8月5日	ボランティアめーふる
8月7日	ボランティアサックス演奏
8月31日	ボランティアめーふるコンサート
9月14日	ボランティアブルース会
11月4日	ボランティとっつこうくっつこう
11月6日	ボランティアFU〜風
11月9日	ボランティア古典芸能の会
11月10日	ボランティア市川教室
12月9日	ボランティア乙女椿
1月22日	ボランティアグルーポカーニャ
2月18日	ボランティア市川教室



ショートステイ菜の花 事業報告

定員：20名 特別養護老人ホーム菜の花併設

ショートステイ菜の花は6年目に突入し、毎月5～6名程の新規利用者と契約をしました。平成28年度の年間稼働率は、前年度を7.8ポイント上回り81.5%となり、80%の目標を達成しました。

カラオケ、おやつ作り、流しそうめん等のレクリエーション、バスクリン工場見学でのバスクリン作りや明治製菓の工場見学等のドライブや外出にも本格的に力を入れショートステイのユニット内も日々賑わいを見せております。

平成28年12月、5名のご利用者の緊急入院があり前年度12月の月間稼働率を下回りました。また新規の方で1回のみのお利用の方を、どのようにリピーターになって頂けるか、今後の課題としてあげられます。

感染症に関しては疑いのある利用者様の早期対応等により集団発生に至る事はありませんでした。

平成29年度は年間稼働率82%以上を目標に掲げ営業活動を図っていきます。そして利用者一人一人が「ショートステイを利用してよかった。」「また来たい。」と思う明るいユニット作りを今後も行なっていきます。

利用状況

実人員	延人数	1日あたり人員	1人あたり日数	稼働率
744人	5952人	16.31人	8.00人	81.5%

利用者数 実人員

月	男	女	計
4	16	40	56
5	20	43	63
6	16	46	62
7	22	40	62
8	22	40	62
9	19	42	61
10	18	43	61
11	17	50	67
12	20	45	65
1	20	45	65
2	15	41	56
3	20	44	64
計	225	519	744

利用者延べ人数

月	男	女	計
4	111	349	460
5	143	349	492
6	133	336	469
7	176	341	517
8	171	389	560
9	135	315	448
10	158	324	482
11	139	372	511
12	144	340	484
1	155	364	519
2	182	287	469
3	202	339	541
計	1847	4105	5952



デイサービス菜の花 事業報告

定員 : 4月～9月 20名 10月～(月)～(金) 25名(土) 20名
 特別養護老人ホーム菜の花併設
 営業日 : 月曜日から土曜日 (年末年始を除く)
 営業時間 : 午前9時30分～午後4時45分までの7時間15分

デイサービス菜の花では平成27年8月より個別機能訓練を開始いたしました。筋力維持向上を目指す利用者様大変喜ばれております。毎日の集団体操も3種類以上行ない、機能訓練に力を入れました。また、毎月さまざまな行事を実施し利用者様の心身の活性化を図りました。調理・おやつレクは男性利用者様にも新しい刺激となり人気のレクとなっています。その他にも春夏秋冬の運動会、外出行事、季節行事等レク活動の充実や、小学生との世代間交流、大学生ボランティア受け入れ等で社会性や生きがいを持てるような取組みを行ないました。

今年度は定員10月より月曜日から金曜日まで25名 土曜日20名としました。また、既存利用者様の増回や市内居宅支援事業所からのご紹介が増え、稼働率が昨年度(56%)に比べ大幅に上昇(75.6%)しました。

利用人数

	利用人数 (人)	延人数 (人)	営業日数 (日)	平均利用 (人)	利用率 (%)
4月	36	365	26	14.0	70.2
5月	37	381	26	14.7	73.3
6月	40	417	26	16.0	80.2
7月	40	418	26	16.1	80.4
8月	44	455	27	16.9	84.3
9月	43	451	26	17.3	86.7
10月	44	447	26	17.0	70.7
11月	45	449	26	17.3	71.6
12月	46	472	26	18.2	74.9
1月	44	459	25	18.4	75.9
2月	40	420	24	17.5	72.4
3月	41	438	27	16.2	66.9
計	500	5172	311	16.6	75.6



畑で野菜の収穫



調理レク・おやつレク



流しそうめん



敬老会



外出レク



季節行事



ハロウィンパーティ



音楽生演奏レク



利用者出演クリスマス劇

居宅介護支援事業所菜の花 事業報告

事業の概要

要介護者が自宅での生活を続けられるように居宅サービス計画の作成等を行います。
利用者数の増加に伴い平成 28 年 1 月より兼務で 1 名、職員が入職しました。
平成 28 年 1 月より 1.5 人体制で運営しております。

平成 29 年度の事業実績は新規契約 30 件、契約終了 16 件でした。

居宅サービス計画作成数の推移（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

	要支援		要介護					計(予防は×0.5件)
	1	2	1	2	3	4	5	
4月	2	2.5	16	11	6	1	0	38.5
5月	1.5	2.5	17	12	7	0	0	40
6月	1.5	2.5	17	12	6	0	0	39
7月	1.5	2.5	16	13	7	1	0	41
8月	2	3	16	14	6	0	0	41
9月	2	3	15	14	6	0	0	40
10月	2	3.5	13	13	7	0	0	38.5
11月	2.5	4	14	12	8	0	0	40.5
12月	2.5	4	13	13	8	0	0	40.5
1月	2.5	3.5	14	13	6	1	0	40
2月	2.5	4	10	14	5	1	0	36.5
3月	2.5	4	11	15	6	1	1	40.5

医務計画（健康サポートセンター報告）

< 実施可能な医療行為 >

① 褥瘡処置	02名
② 浣腸摘便	02名
③ 人工肛門	04名
④ インスリン注射	00名
⑤ 簡単な創処置	02名
⑥ 在宅酸素療法	02名
⑦ 胃瘻経管	00名
⑧ 薬剤管理	70名
⑨ バルーン管理	02名

< その他の医療行為 >

1 感染症対策	
① インフルエンザ	04名
② 疥癬	00名
③ 「MRSA」	00名
④ 結核	00名

< お亡くなりになった方 >

1 「施設」で亡くなった方	28名
① 「看取り」で亡くなった方	13名
② その他の方	15名
2 「病院」で亡くなった方	02名
① 藤枝市立総合病院	01名
② 甲賀病院	01名

< 医務会議（健康サポートセンター会議） >

毎月1回

< 急変時の対応 >

- 1 救急車にて救急搬送先
 - ① 藤枝市立総合病院 ……22名

< 健康診断 >

- 1 入所者定期健康診査
 - ① 実施期間 平成28年10月06日～11月30日
 - ② 実施機関 ほしのクリニック
 - ③ 実施人数 59名
 - ④ 実施内容 胸部レントゲン・心電図・血液検査・尿検査
 - ⑤ 費用 施設負担（検査内容により家族負担あり）

< 予防接種 >

- 1 インフルエンザ予防接種
 - ① 実施期間 平成28年11月10日～12月08日
 - ② 実施医師 嘱託医 星野正明先生
 - ③ 実施場所 菜の花各ユニット
 - ④ 実施人数 53名

ボランティア受入報告

1. 日常生活支援と趣味活動支援ボランティア

	開催日	内容	主催者	来所人数
1	4/22	音楽コンサート	ティラミス	2名
2	5/11	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
3	5/16	尺八・舞踊・手品	FU～風	3名
4	6/22	歌唱	コーラス楽歌声（らっかせい）	10名
5	6/23	大正琴	市川教室	3名
6	7/6	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
7	7/11	舞踊	竹篠会（ちくしのかい）	5名
8	7/20	フォルクローレ演奏	グルーポカーニャ	1名
9	8/22	フルート・ピアノ演奏	ティラミス	2名
10	9/7	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
11	9/21	合唱	乙女椿	9名
12	9/30	大正琴	市川教室	4名
13	10/19	尺八・舞踊・手品	FU～風	4名
14	10/19	ウォーキング	さかき晴人	1名
15	11/2	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
16	11/9	フォルクローレ演奏	グルーポカーニャ	1名
17	11/30	歌唱	コーラス楽歌声（らっかせい）	10名
18	12/12	フルート・ピアノ演奏	ティラミス	2名
19	1/11	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
20	2/9	大正琴	市川教室	3名
21	3/1	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
22	3/15	フォルクローレ演奏	グルーポカーニャ	1名

消防・防災 事業報告

1 消火・通報・避難・救護・総合訓練

平成 28 年 6 月 10 日 10:00~11:00

参加者 40 名

訓練内容

通報訓練、消火訓練、避難訓練を連動して実施。

避難終了後、職員・一部のご利用者で水消火器を使用して初期消火訓練を実施し、消防設備の取扱いについては、点検業者からの説明を受けました。

2 「社会福祉施設防災の日」総合防災訓練

平成 28 年 11 月 1 日 13:30~15:30

参加者 271 名(職員、入居者、利用者、地域住民、消防署、設備業者、視察者他)

訓練内容

通報訓練、消火訓練、救出・救護訓練、避難訓練を連動して実施。

避難終了後、職員、視察者他、志太消防本部藤枝消防署員の指導の下、煙体験訓練、救急法(AED)訓練を実施。その他、施設側主導による炊き出し訓練、非常用発電訓練を実施。

消防設備の取扱いについては、点検業者からの説明を受けました。

消防用設備法定点検

① 平成 28 年 9 月 16 日…全設備異常なし

平成 29 年 3 月 1 日…全設備異常なし



寄付・寄贈 報告

年月日	寄贈者	品目・数量
平成 28 年 5 月 17 日	社会福祉法人 聖啓会 理事長 星野正明	寄附金
平成 28 年 10 月 8 日	藤枝市茶手揉み保存会	手揉み茶
平成 28 年 12 月 21 日	木村芳夫様	雛人形

平成28年度 苦情対応報告

平成29年3月31日
苦情解決管理責任者 川口節子

菜の花では苦情は「宝」としてありがたく頂戴しております。

皆様から頂いた苦情は真摯に受け止め職員全体で共有し、再発防止に努めております。

本年度、頂戴しました苦情は下記の内容でございます。

如何に施設の対応が不親切で、モラルに欠けていたか、誠にお恥ずかしい次第で、皆様にご迷惑をかけておりました事をお詫び申し上げます。

まだまだ未熟な施設である事を猛省し、開設6年目として、更に努力をして参ります。
今後も貴重なご意見をお寄せ下さいます様お願い申し上げます。

記

- 1 期間 平成28年04月01日～平成29年03月31日
- 2 件数 19件
- 3 事業所別
 - ・デイサービス 1件
 - ・ショートステイ 15件
 - ・特養 3件

平成28年度 苦情・対応

受付年月日	事業区分	苦情内容	今後の対応方法
H28. 4・4	ショート	薬がないと思い込み本人に確認せず、介護職がご家族に電話をしてしまった。	本人がしっかりされている方なので、まず本人に確認してからご家族に連絡する。
4・25	特養	①個人持ちの固形石鹸をポンプ式にしてほしいと職員から言われたが、日曜品費を払っているので施設で準備してほしい。 ②ユニットの職員の名前と顔が解るようにしてほしい。担当者が解らない。 ③加湿器の水が汚い	①ご本人の希望の石鹸を施設で日用品費を使い準備する。 ②エレベータ前に各ユニット別に顔写真を貼る。居室に受け持ちが解るようにし ご家族が直接受け持ちの介護職と接点を持つ様にした。 ③毎日交換時間を決め清潔を保つようにした。
6・11	ショート	前回と前々回に帰って来た時に髭が剃ってなかった。	ご本人の拒否もあるが、極力協力を得て剃る様にする。
9・15	ショート	失禁に対して職員に怒られた。もう泊まるのはいやと言っている。	職員の接遇研修実施。 本人に注意した。
1 0・01	ショート	消灯時間が職員により違うにはおかしい。8時に消す人と8時30分に消す人がいる。	利用者中心の考え方を職員全体に啓発する。理念の浸透を図る。
10・0 2	ショート	職員が挨拶できない。一人が目立つ。育ちなのか教育なのか。菜の花で教育してほしい。	サービス業で挨拶は基本。個人面接指導した。
10・02	ショート	お迎えの時間の間違いにより、“遅い”とご家族から苦情の電話が入る。	配車表の書き間違いが原因であった。確認を怠らない。入所予定表に添って配車表を作成する。
10・07	特養	職員の言葉使いが悪い声掛けが厳しく聞いていて切なくなってしまふ。	ご家族にこの様な気持ちを持たせてしまい申し訳ない。入居者はお客様の意識を持つように指導していく。優しい声掛け運動をして行く。
10・18	ショート	①下着に便が付着していたそのままバックに入っていた。以前にも紙パンツの中にも便がしてあった。 ②車椅子よりづり落ちがあり看護師に受診を勧められたが、受診結果な異常がなかった。看護師はちゃんと診てくれていたのか。	①ご本人の拒否もあるが、極力協力を得て排泄援助をさせて頂く。帰る直前に荷物の再確認を行なう。 ②臀部痛があった為念の為に受診を勧めた。

受付年月日	事業区分	苦情内容	今後の対応方法
11・04	ショート	送り迎えを間違え実際は退所で送りの予定であったが、自宅にお迎えに行ってしまう、ご家族から「ちゃんとしてほしい」と言われた。	初歩的な確認ミス、朝礼時声をだして確認していく事にした。
11・28	ショート	①薬を二重に内服させてしまった。 ②退所時家族送迎と思い込みご家族から帰りが遅いと連絡があり施設送迎であった事に気づいた。	①本人は朝飲んで来られ、来所時薬の管理不足で手の届く場所に持参薬がありご自分で飲まれ重なってしまった。薬の管理は入所後早く看護師に渡す。 ②確認不足。相談員同志の連携を図る。
12・19	ショート	①行く時は洋服4枚着て行った。帰りも4枚着せて帰る様にお願ひしてあったが、2枚しか着ていなかった。 ②洗濯済みと未洗濯の物が一緒の袋に入っていた。 ③パジャマが着た形跡がなかった。本人が嫌がったのか調べてほしい。 ④施設に行った時はパンツの上に着用をはいていたが、帰って来た時はパンツを2枚はいていた。	①ご本人の意向であった事をご家族に伝えた。 ②ご本人と一緒に帰宅の準備をする。 ③ご本人の更衣の希望に添うが極力更衣をしていただく様にお願ひする。 ④退所前に確認していく。 *全てご家族に状況報告をして了解を得る事が原則。
H29.1.4	ショート	職員の対応に個人差がある。挨拶をしてお茶を出してくれる人と、挨拶もしてくれない人がいる。挨拶位はしてほしい。	接遇の徹底を図る。
1・23	ショート	「朝迎えに来てくれた職員が郵便ういけから新聞と郵便物を取りドアを開けた私に渡してくれた気をきかせてくれたつもりでしようがあまり良い気持ちではなかった。」	常識の範囲を指導。
2・10	ショート	「迎えの時間が遅い仕事を抜け出して待つて居た」時間通りに来てほしい。」	時間が過ぎそうな場合はご家族連絡をする。

受付年月日	事業区分	苦情内容	今後の対応方法
2・20	ショート	①「菜の花のズボンをはいて帰って来たがゴムが緩い状態であった予備のズボンを持っていたのにどうなっているのか」 ②「1泊2日が入浴したのか解らない連絡ノートに記載がない。」	①入所時にズボンが入って居なかった事を伝えた ②入浴されている事を伝えた *全て連絡表に記録しご家族が解るようにする。
3・24	ショート	退所時ズボンが入っていなかった。はき易いズボン探してほしい。	探して見つかりお届けした。
3・31	デイ	利用者の方はインフルエンザは完治していたが同居の施設が集団で発病している為デイをもう少しお休みして頂きたい旨の連絡方法が悪かった。	ケアマネに連絡しケアマネからご家族に伝わり不信感を招いた。今後は直接事業所からご家族に連絡し了解を得る。
3・31	特養	相談員の対応が悪い。入居申込の際に入居拒否と受け取れる発言があった。	後見人との話の行き違い。確認した事が拒否ととられた。言葉に注意していく。

内部研修報告 一覧

開催年月日	研修名	主催者	会場	参加者職種	参加者氏名	研修内容
平成 28 年 4 月 1 日	新人研修	西井戸	相談室	介護職	飯塚麻帆、塚本正好	就業規則、法人組織、施設内案内等
平成 28 年 4 月 21 日	トランスファー ボディメカニクス	大関	地域交流室	介護職	飯塚麻帆、塚本正好	トランスファー、ボディメカニクスに関する講義及び実技
平成 28 年 4 月 22 日	介護計画書について	福與	地域交流室	介護職	飯塚麻帆、塚本正好	フェースシートの見方、介護計画書、担当者会議の説明。介護職員とケアプランとの関わりについて
平成 28 年 5 月 23 日	食中毒について	奥津	地域交流室	介護職	池田純子、塚本正好、 飯塚麻帆	食中毒菌別の発生原因と予防、対応について学ぶ
平成 28 年 11 月 1 日	AED の使用方法	丸山	地域交流室	介護職	佐藤美雪、石原春香、 柴山育乃、早川有希子、 片岡考治	志太消防本部から外部講師を招き、AED の説明や使用方法について実技を交えて学ぶ
平成 28 年 12 月 21 日	ノロウイルスについて	川口	地域交流室	介護職	藤原真利子、松永香代子、 松浦大輔、池田俊介	嘔吐と下痢への対応方法、感染を広げないための対策についての講義、実践を学ぶ
平成 28 年 12 月 19 日	ノロウイルスについて	奥津	地域交流室	介護職	西井戸、飛驒、井戸端、 紅林、佐藤	嘔吐と下痢への対応方法、感染を広げないための対策についての講義、実践を学ぶ
平成 29 年 2 月 1 日	インフルエンザ対策	川口	地域交流室	介護職	西井戸、福與、杉本、奥 津、井戸端、大澤、大畑、 藤原、戒能、佐藤、飛驒、 斎藤、小長谷、瀧下	感染を広げない対策について、感染対策の基本やインフルエンザ対応方法などについて学ぶ
平成 29 年 2 月 17 日	看取りケア	鳥海	地域交流室	介護職、その他施設外からの参加者	45 名程度	看取りケアの考え方や実践方法が時代により変化してきたことや、施設内で看取る際にどのように本人・家族と接すると良いかなどを実例を交えて学ぶ

外部研修報告 一覧

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者 職種	参加者氏名	内容
平成 28 年 4 月 18 日	社会福祉法人 監事 監査研修会	静岡県社会福祉協 議会	グランシップ	監事 事務課長	杉山重人 西井戸靖	社会福祉法人における監査機能の充実 及び関係役職員の資質・能力の向上
平成 28 年 4 月 21 日	藤枝市立総合病院 地域医療勉強会	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	生活相談員 ケアマネ 施設ケアマ ネ	村松多加代 原崎尚子 福与麻貴	地域包括ケアシステム推進に関する診 療報酬改定とその対応について
平成 28 年 5 月 26 日	第 1 回 医療・福祉施 設等看護代表者会議	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	看護の動向と静岡県看護協会の活動に ついて
平成 28 年 5 月 27 日	静岡県老人福祉施設 協議会 施設長会	静岡県老人福祉施 設協議会	静岡県総合社会福祉会 館	施設長	川口節子	総会后、職員の採用・育成に関する講 演会
平成 28 年 5 月 30 日～ 平成 28 年 7 月 5 日	介護支援専門員 更 新研修	静岡県介護支援専 門員協会	グランシップ他	施設ケアマ ネ	福與麻貴	介護支援専門員として必要な知識及び 技術の修得を図る
平成 28 年 6 月 14 日	社会福祉法人による 地域貢献事業に係る 先進事例紹介と話し 合い	藤枝市社会福祉協 議会	福祉センターきすみれ	事務主任	中村端穂	社会福祉法人による地域貢献事業に係 る先進事例紹介と話し合い
平成 28 年 6 月 21 日	静岡県看護管理者会 研修会	静岡県看護管理者 会	静岡県総合研修所もく せい会館	施設長	川口節子	講演会「元気みなぎる看護管理とマネ ジメント」
平成 28 年 7 月 19～21 日、 8 月 1 日～5 日	2016 年度ユニットリ ーダー研修	全国個室ユニッ ト型施設推進協議会	ウインク愛知	介護職	坂田あゆみ	ユニットケアの理念、具体的ケアの在 り方など、実践的な学びを深める
平成 28 年 7 月 9 日、24 日、8 月 21 日、27 日	介護福祉士実習指導 者講習会	一般社団法人静岡 県介護福祉士会	静岡県総合社会福祉会 館	介護職	堀田隆弘	実習指導者が必要な専門的知識及び教 育方法を学ぶ
平成 28 年 9 月 5 日	静岡県看護の質向上 促進研修	静岡県看護協会	静岡県看護協会	看護職	大石英代	感染予防対策、医療安全対策、地域医 療連携における看護職の役割について

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者職種	参加者氏名	内容
平成 28 年 9 月 27 日	静岡県個室ユニット型施設連絡会 第 2 回研修会	全国個室ユニット型施設推進協議会	介護老人福祉施設「梅香の里」	介護職	堀田隆弘 野上初美	サービス向上の具体的取り組み及び課題の共有
平成 28 年 10 月 15 日	志太榛原地区支部看護協会研修会	藤枝市立総合病院	藤枝市生涯学習センター	施設長	川口節子	「脳卒中を予防するために」をテーマにした研修会
平成 28 年 10 月 27 日	高齢者及び障害者入所施設における感染症予防対策研修会	藤枝市立総合病院 感染管理室	藤枝総合庁舎	保健師	森田佳子	感染を広げない対策について具体的な対応を学ぶ
平成 28 年 10 月 31 日	社会福祉法人改革にかかる研修会	静岡県老人福祉施設協議会	グランシップ	施設長	川口節子	社会福祉法人改革を理解し、円滑な事務手続きや施設運営の知識を学ぶ
平成 28 年 11 月 25 日	腰痛予防対策講習会	中央労働災害防止協会	静基連会館	機能訓練員	大関浩道	腰痛予防対策の必要性、進め方、実技について学ぶ
平成 28 年 11 月 25 日	第 1 回 地域医療連携研修	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	介護職	飛騨敏一 西嶋真季子	冬場に多い高齢者の感染症、感染予防と対策について学ぶ
平成 28 年 11 月 28 日	静岡県地域福祉教育推進セミナー	静岡県社会福祉協議会	静岡県男女共同参画センター あざれあ	施設長	川口節子	教育現場と地域とのかかわりをパネルディスカッションを通じて共有する
平成 29 年 1 月 17 日	第 2 回医療・福祉施設等看護代表者会議	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	日本看護協会の動向及び平成 28 年度重点事業の進捗状況・課題の報告
平成 29 年 1 月 24 日	高齢者施設の虐待防止対策セミナー	あいおいニッセイ同和損保	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	介護職	池田純子	コンプライアンス・虐待防止に対し、事例を交えて具体的な防止策を学ぶ
平成 29 年 2 月 3 日	静岡県看護管理協会 第 2 回研修会	静岡県看護協会	静岡県男女共同参画センター あざれあ	施設長	川口節子	ストレスに負けないからだづくりについて学ぶ
平成 29 年 2 月 9 日	中部支部総会及び研修会	静岡県老人福祉施設協議会	クーポール会館	施設長	川口節子	平成 29 年度事業計画、在宅医療・介護連携システムについての説明
平成 29 年 2 月 24 日	志太榛原地区特養施設長連絡会	志太榛原地区特養連絡会	特別養護老人ホーム杉の子園	施設長	川口節子	社会福祉法人天心会の公益的活動及び社会保障制度に関する講演

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者 職種	参加者氏名	内容
平成 29 年 2 月 27 日	身体拘束廃止フォー ラム	静岡県介護福祉士 会	グランシップ	施設長 介護職 介護職	川口節子 米谷枝里子 石原春香	高齢者の権利擁護と身体拘束廃止につ いての講演、実践報告、意見交換会
平成 29 年 3 月 6 日	静岡県福祉職合同入 社式	静岡県社会福祉協 議会	グランディエールブト ーカイ	事務課長	西井戸靖	講演「こころ元気に仕事をするには」、 グループ交流会及び話し合い
平成 29 年 3 月 11 日	静岡県看護協会志太 榛原地区支部集会	静岡県看護協会	藤枝市立総合病院	施設長	川口節子	地域包括ケアシステムについての講演 会
平成 29 年 3 月 28 日	平成 28 年度 3 月定例 総会	静岡県老人福祉施 設協議会	静岡県総合社会福祉会 館	施設長	川口節子	平成 29 年度事業計画、講演「老人福祉 施設における防犯対策」

